

大学生からのコミュニケーション

日時 市ヶ谷：4月15日（木）15:00～16:40
 小金井：4月16日（金）15:10～16:50
 多摩：4月19日（月）15:30～17:10

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：30名
2. 講師：鈴木まり子氏
 （法政大学兼任講師）
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - オンライン授業や今後の大学生活の中で役立つコミュニケーションスキルを身に付ける。
4. 内容：

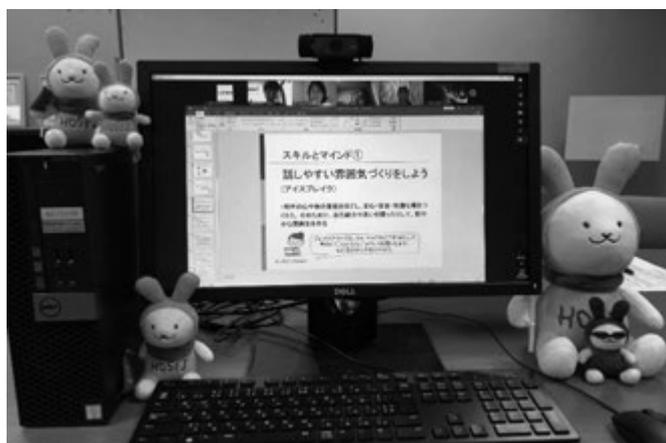
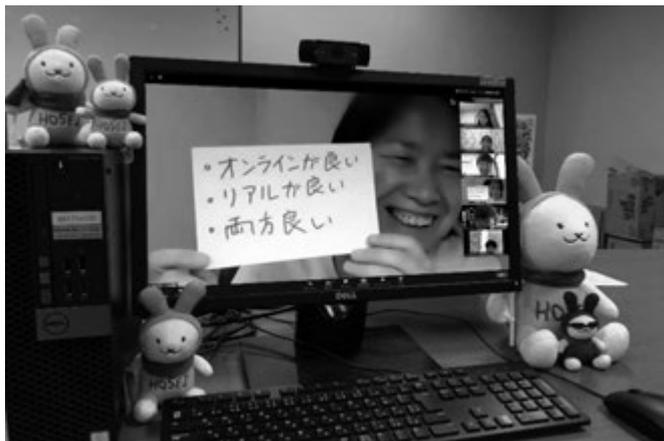


2021年4月に課外教養プログラム「大学生からのコミュニケーション」を実施いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、対面で交友関係を築く機会が著しく減りました。本年度から、法政大学では対面授業を基本としたハイブリッド形式の授業を行っていく予定ですが、慣れないオンライン上でのコミュニケーションに不安を抱える学生も多いです。本プログラムでは、その不安を取り除き、オンラインでの交流や今後の学生生活をより有意義にするためのコミュニケーションスキルについて学ぶことを目的に実施しました。

プログラムではまず初めに、鈴木先生から「コミュニケーションとは」「コミュニケーションのスキルとマインド」についての講義をしていただきました。傾聴や質問するといった対面でのコミュニケーションで意識して行うと良いものに加えて、対面のとき以上に自分から積極的に声をかけていくといったオンラインならではのコツについても教えていただきました。講義の後は実践も兼ねてグループワークが行われました。各グループ約4人に分かれ、参加者を1名を話し役、他3名を傾聴役としてローテーションしながら交流を図りました。初対面同士にも関わらず、楽しそうに話している場面が見受けられ、参加者の多くは対面授業が減って人との繋がりを持てていなかった中、交友関係を広げながらコミュニケーションのノウハウを学ぶ非常に良い機会となりました。

参加学生が本プログラムをきっかけとし、コミュニケーションに積極的に取り組み、今後の学生生活をより有意義なものとしていただけましたら幸いです。

プログラムの様子



アニメから学ぶ社会構造の変遷

日時 5月29日(土) 13:20~15:00

場所 Zoom によるオンライン開催

概要

1. 参加者数：20名

2. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- アニメを通じて日本の社会構造の変遷を学生に知ってもらうを通じ、現在および将来の社会における社会構造についても学生に考えてもらう。

3. 内容：

2021年5月29日(土)に課外教養プログラム「アニメから学ぶ社会構造の変遷」を実施しました。

このプログラムは、子ども向けのアニメを通じて、かつて男性中心であった日本の社会構造の変容を学び、現在および将来における社会構造について考えることを目的に実施しました。

プログラムではまず、講師の須川先生に日本の社会構造の変遷についてアニメの歴史を交えて解説していただきました。講義後は、そこで学んだことを踏まえて「日本の社会構造がどのように変わっていったのか」「これからの社会で求められる個人のあり方」について参加学生同士で考えを共有するグループワークを実施しました。

参加学生からは、「アニメが単なるエンタメではなく、問題提起を含んでいたり社会構造に結びついていたりすることを知ることができてよかった。」「一般的に娯楽と扱われるアニメから、社会を考えるという新しい視点を持つことができた。」という意見もいただきました。また、「グループワーク時に他学部、他学科、他学年のさまざまな学生同士で交流でき、充実していた。」という感想もいただきました。

本プログラムが、参加学生が今後の社会を担う人材として社会を見つめ、この社会をどうしたいか、自分達がどう活躍していきたいかを考え、その理想に向かってひたむきに頑張ってもらえる機会となれば幸いです。

【報告・KYOPRO 学生スタッフ】赤田萌々（生命科学部生命機能学科2年）



プログラムの様子



歌舞伎鑑賞教室

日時 6月12日(土) 14:30~16:30

場所 国立劇場

概要

1. 参加者数：26名
2. 実施目的：
 - 日本の伝統芸能の1つである歌舞伎の鑑賞を通じて、日本文化を体験する。



3. 内容：

6月12日(土)、学生センターの課外教養プログラム「歌舞伎鑑賞教室—日本文化を学ぼうシリーズ—」を実施しました。本プログラムは、鑑賞を通じた日本文化に関する教養教育を目的として、実施しました。

鑑賞教室は国立劇場で実施されました。今回の演目「人情噺文七元結」は落語の人情噺をベースにした笑いあり、涙ありの歌舞伎演目でした。この演目は、時代劇やお家騒動をベースにした歌舞伎とは異なり、事前知識や背景が分からなくて話の内容が掴みやすい為、参加者の学生は楽しみながら、鑑賞をする事が出来ました。

冒頭の40分は、「解説 歌舞伎のみかた」として、物語の舞台となった江戸の当時の様子や当時の通貨の価値、黒御簾音楽、舞踊の表現方法の説明を交え、歌舞伎の基礎について、分かりやすくご紹介頂きました。解説を担当して頂いた、中村種之助さんによる説明は面白く、参加者は終始笑顔で聞いていました。途中、実演を交えた説明の場面では、なかなか目にする事のない歌舞伎の実演に興味津々とした様子で説明に聞き入る姿が印象的でした。

その後、参加者は実際に「人情噺文七元結」を鑑賞しました。コミカルな演技や迫力のある役者の立ち居振る舞い等、魅力的な演技の様子に参加者は真剣に鑑賞していました。また、冒頭の解説のおかげで、初めて歌舞伎を鑑賞する学生でも楽しく鑑賞する事が出来ました。

本プログラムは、早々に参加者募集が定員に達し、留学生の参加も多く見受けられました。参加者からは、「初めての歌舞伎鑑賞であったが、前半の解説のおかげで分かりやすかった。また、舞台装置や役者の方を目の前で見る事が出来てすごく勉強になった」、「今回の歌舞伎観劇で、歌舞伎について興味を持った。今後も機会があったら、他の歌舞伎の鑑賞にも行きたい」という声があり、学生にとって貴重な経験になったようです。

課外教養プログラムでは、今後も日本の伝統文化に関する知識を身につけ、体験を通して学ぶことの出来るプログラムを実施していきます。

プログラムの様子



多目的室利用講習会

日時 2021年6月14日(月)
16:50~18:00 18:30~19:40
2021年6月16日(水)
16:50~18:00 18:30~19:40

場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎地下1階多目的室1

概要

1. 参加者数：24 団体 31 名

2. 講師：舞台技術研究会

3. 実施目的：

- 多目的室を使用する際に最低限必要なマナーと機器の使用方法を学ぶ。
- サークルが講師となって知識やスキルをレクチャーするピアネットの実現。

4. 内 容：

多目的室利用の基本的なマナー、および専門的な音響・照明設備の概要と扱い方・明かり出しと音出し等比較的簡単な機材の操作方法を習得してもらいました。各機材の適正な使用法だけでなく、多様な表現方法も学んで頂きました。

当日は、ステージの照明・音響設備の操作を専門的に行う舞台技術研究会さんにご協力頂き、音楽活動、演劇活動を行う各団体に対して、レクチャーをして頂きました。各団体が共用して使用する場所である為、今回学んだ知識を活かして、自団体の活動をより本格的にするだけでなく、次に使用する団体が気持ちよく使えるように配慮をして頂きたいと思えます。

多目的室を練習のみや照明、音響機材を使用しないで利用している団体にはマナーのみの講習を受けてもらいました。



プログラムの様子



能楽鑑賞教室－日本文化を学ぼうシリーズ－

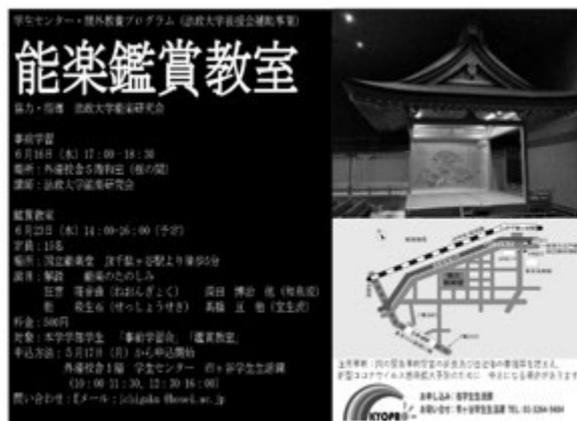
日時

事前学習 2021年6月16日(水) 17:00~18:00
 作品鑑賞 2021年6月23日(水) 14:00~16:15

場所

事前学習：市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階
 作品鑑賞：国立能楽堂

概要



1. 参加者数：15名（うち、留学生1名）
2. 講師：能楽研究会（法政大学公認サークル）
3. 実施目的：

■日本の伝統芸能の1つである歌舞伎の鑑賞を通して日本文化を体験する。

4. 内容：

6月23日(水)、学生センターの課外教養プログラム「能楽鑑賞教室」を実施しました。

本企画では、能楽を観に行くだけでなく、本学の登録団体である能楽研究会が講師となった事前学習を経たうえで能楽を観に行きました。6月16日の事前学習会では、能と狂言の違い、お囃子について、面・装束について、能楽鑑賞のマナー、仕舞実演「演目紹介」を、実演を交えながら能楽研究会が解説し、鑑賞前に理解を深めました。

お囃子の紹介では、アプリを使い実際の音を和室で聞かせて頂いたりしました。

鑑賞教室当日は、参加者から「事前学習会のおかげで能に関する理解を深め、鑑賞を楽しむことができた」との声があり、事前学習会の重要性を認識しました。

国立能楽堂では、解説「能楽の楽しみ」を見た後、能「寝音曲」、狂言「殺生石」の演目を鑑賞しました。

課外教養プログラムでは、今後も日本文化についての知識を身に付け、体験を通して学ぶことのできるプログラムを実施していきます。

【参加学生による感想】

- ・事前学習や配布資料のおかげで、うたの内容を理解でき、物語のうちのどの場面を表現しているのかを把握でき、より楽しむことができた。
- ・漫画などを取り入れていてわかりやすかった。基本的な単語から説明してくれてわかりやすかった。
- ・事前に今回見る内容やおさえておきたいポイント等を教えて頂いたため、内容が頭に入ってきやすかったです。マンガで解説されていたのも、良かったです。
- ・能楽研究会の資料が大変読みやすくわかりやすかった。

プログラムの様子



オレンジホール利用講習会

日時 2021年6月21日(月)
16:50~18:00 18:00~19:40

場所 市ヶ谷キャンパス富士見ゲート校舎地下二階オレンジホール

概要

- 参加者数：18団体 22名
- 講師：舞台技術研究会
- 実施目的：
 - 学生がオレンジホールを使用するうえで必要最低限のマナーと機器の使用方法を学ぶ。
 - サークルが講師となって知識やスキルをレクチャーするピアネットの実現。

4. 内容：

オレンジホール利用の基本的なマナー、および専門的な音響・照明設備の概要と扱い方・明かり出しと音出し等比較的操作が簡単な機材の操作方法を習得してもらいました。各機材の適正な使用法だけでなく、多様な表現方法も学んで頂きました。

当日は、ステージの照明・音響設備の操作を専門的に行う舞台技術研究会にご協力頂き、音楽活動、演劇活動を行う各団体に対してレクチャーをして頂きました。

各団体が共用して使用する場所である為、今回学んだ知識を活かして、自団体の活動をより本格的にするだけでなく、次に使用する団体が気持ちよく使えるように配慮をして頂きたいと思えます。

オレンジホールを練習のみや照明、音響機材を使用しないで利用している団体にはマナーのみの講習を受けてもらいました。



プログラムの様子



方言から学ぶ私たちの日本語

日時 2021年6月24日(木) 15:30~17:10

場所 Zoom

概要

- 参加者数：7名
- 講師：篠崎晃一氏（東京女子大学現代教養学部）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 言葉によるコミュニケーションの多様性を理解してもらう。
- 内容：

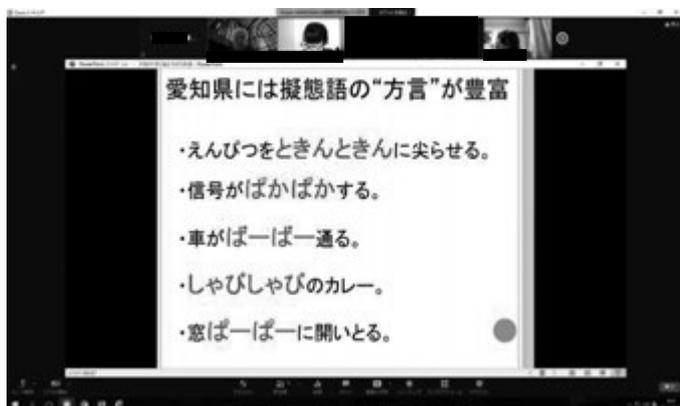
2021年6月24日(木)に課外教養プログラム「方言から学ぶ私たちの日本語」をZoomにてオンライン開催いたしました。大学は、高校までとは違い、様々な地域から多くの学生が集まる場所です。そのため会話の中でお互い標準語を話しているつもりでも、表現方法の違いを感じる場合があります。だからこそ同じ日本語でも地方によって異なる方言について学ぶ機会を提供するために本プログラムを開催する経緯に至りました。本プログラムは方言の誕生の仕方や広がり方のプロセスを通じて、現代の方言の在り方を考え、日本語表現の豊かさを学ぶことを目的としました。

講師には東京女子大学現代教養学部教授であり、方言学や、社会言語学を専攻されている篠崎晃一氏をお招きしました。プログラムでは、篠崎氏がゼミ生とともに開発した「方言チャート」を参加者に事前に行ってもらい、グループワークで感想を共有しました。参加者のなかには関東圏だけではなく、他の地域の出身者もあり、地元で使っている方言を実際に聞くことができました。関東圏内で使われている表現でも、標準語だと思っていた言葉が実は方言だったという新たな発見もありました。例えば、関東圏出身の人が「片付ける」という意味で使う「かたす」という言葉が方言だと知った時はとても驚きました。その後の講演は、関東圏と関西圏での言葉の言い方の違いや、その境界は言葉によって変わってくることも興味深いと感じました。そして方言は、奈良時代に使われていた言語から影響していることを知り、古くから日本人の生活に関わっているものだとの認識することができました。講演後には、再度グループワークで方言について学んだことを話し合い、それぞれが印象に残った内容についての感想を共有しました。標準語が当たり前となっている今の世の中に対して、方言という日本の地域ならではの文化や歴史を残していくために、互いに言語の多様性を尊重していくとともに、後世に残していくべき存在だということを改めて実感しました。

学生には本プログラムを通じて、言葉によるコミュニケーションの多様性を理解するとともに、自分たちが普段使っている言葉について改めて考えるきっかけとなってくれば幸いです。さらに学校という社会だけにとどまらず、これからの世代を担う立場として、様々な言語を認め合い、行動していけることを願っております。



プログラムの様子



魚で学ぶ あなたの知らない地球温暖化

日時 2021年7月1日(木)
17:00~18:40

場所 Web 会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：23名
2. 講師：木村伸吾氏
(東京大学大学院 新領域創成科学研究科/大気海洋研究所 教授)



3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- なかなかイメージがしづらい地球温暖化について、大学生にとって身近な魚の生息域の変化から学び、地球温暖化について関心を持つ。

4. 内 容：

7月1日、法政大学課外教養プログラム『魚で学ぶ! あなたの知らない地球温暖化』を実施致しました。

本企画では、地球温暖化の影響を魚の生息域の変化から学ぶという事を目的としたものです。講師として、東京大学大学院新領域創成科学研究科/大気海洋研究所教授の木村伸吾先生をお招きしました。先生は水産海洋学を専門とし、地球環境の変化という側面からウナギ、マグロといった魚類の生態に関する研究を行っていらっしゃいます。

本企画は zoom にて実施し、プログラム内では学生同士のディスカッションと先生の講義を交互に行いました。

まず、ディスカッションではブレイクアウトルームに分かれて学生に「地球温暖化の海への影響」や「海や魚の変化が我々の生活に与える影響」、「私たちには今後何ができるか」などテーマを定めて話し合った後に、ディスカッションを通じて出た意見には木村先生からフィードバックを頂きました。

また、講義では地球温暖化の影響による魚の生息域の変化を中心にお話ししていただきました。講義の最後には、魚の生息域の変化に対して、我々ができる事の先生なりの答えを教えてくださいました。

現在の世界の海の状況と魚の生息域の変化がどのようになっているのかという事について学べ、非常に勉強になりました。

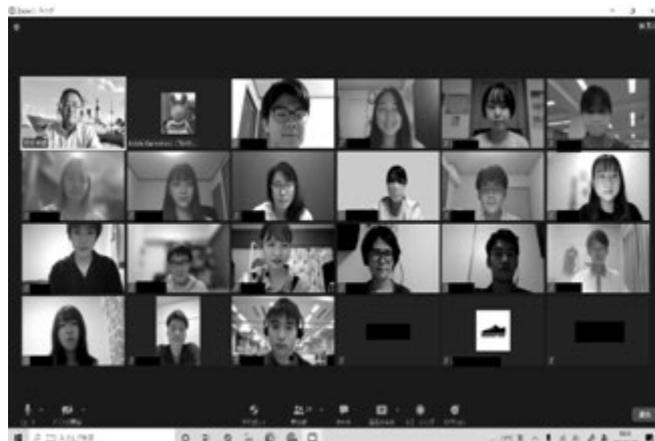
講義は分かりやすく、参加学生は真剣に講義に聞き入っている姿が印象的でした。そして、今回の企画ではオンラインでも積極的に学生同士が交流できる企画を目指し、ディスカッションを多く取り入れました。

学生同士のディスカッションでは、活発に話し合いが行われており、コロナ禍によって希薄になってしまった学生間の交流をサポートする事が出来たと感じています。

本プログラムをきっかけに、再度、地球温暖化という問題に関心を持っていただければ幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】野口遥夏（法学部法律学科3年）

プログラムの様子



三曲体験教室－日本文化を学ぼうシリーズ－

日時 2021年7月6日(火) 18:35～20:15

場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階 和室

概要

1. 参加者数：6名(対面)
2. 協力：法政大学三曲会
3. 実施目的：
 - 学生サークルによる「ピアサポート」の実践
 - 日本の伝統文化の体験
4. 内容：

7月6日(火)、学生センター・学生生活応援プロジェクト
「－日本文化を学ぼうシリーズ－三曲体験教室」を実施しました。



本企画は、三曲(三味線・箏・尺八)鑑賞と、体験を通じた伝統芸能に関する教養教育と新型コロナウイルスの影響で停滞してしまったサークル活動を再び盛り上げる事を目的として実施しました。

プログラムでは、本学の登録団体である三曲会が講師となり、三曲の歴史や楽器について学びました。また、学んだうえで実際に三曲会の皆さんによる演奏を聴きました。参加者はなかなか聴く事の無い三曲の演奏に、参加学生は感動している様子でした。当日は、新型コロナウイルス感染対策でオンラインでも実施を行いました。体験は出来ない物の三曲会の演奏に聞き入っている様子が印象的でした。

その後は、三味線、箏、尺八の3グループに分かれて、楽器の演奏を体験しました。三曲会の皆さんが参加学生について体験のサポートにあたり、お互いに楽しそうに楽器を演奏していました。使用した楽器はアルコール消毒を行ったり、使用する前は手指を消毒する等感染対策を徹底して行いました。

参加学生からは、「三曲会の楽器に関する説明や演奏もとても面白かった」「もっと演奏したい」など、多くの感想をいただきました。なかには、プログラム終了後も三曲会の学生と話している参加学生もあり、本プログラムは学生同士の交流の場ともなりました。

また、今回は企画の宣伝も兼ねて新しく出来上がったばかりのキャンパス中央広場にてデモンストレーションを行って頂きました。「六段の調べ」、「さんさんさくら」の二曲を披露して頂きました。昼休みの時間に行ったので、通りがかった学生はなかなか目にする事の無い三曲会の演奏に足を止めて聞き入る姿が印象的でした。

プログラムの様子



生理から知る「やさしい社会」をつくる方法 ～思いやりへの小さな一歩～ (KYOPRO×VSP 共同企画)

日時 2021年7月13日(火) 16:50～18:30

場所 外濠校舎2階 S204教室+ZOOM

概要

- 参加者数：31名
- 講師：ユニ・チャーム株式会社 様
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 正しい知識・理解を持ちづらい・学びづらい「生理」について学び、人々が生きやすい社会・共生社会を目指す

4. 内容：

女性の月経(=生理)について正しい知識・理解を持っている学生は女性も含めて少なく、その仕組みや、月経前後・月経中の症状やその対策についての学校での指導・性教育も十分にされているとは言いがたいのではないのでしょうか。性別を問わず症状を理解していない人から心無い言動・行動をとられ苦しい思いしている女性がいることを踏まえ、人々が生きやすい社会・共生社会を考えた際に、社会全体の問題であると捉えたため本講義を企画しました。

講師にはユニ・チャーム株式会社様に企画段階からご協力いただき、同社のNoBagForMeプロジェクトの一環である「みんなの生理研修」、生理用品を扱う会社からの正しい知識を提供していただきました。当日はユニ・チャーム株式会社様からの講義+企画メンバーからの講義+ディスカッションワークの形式で行い、また博報堂様に撮影・取材をしていただきました。

前半の講義ではユニ・チャーム株式会社の福田氏にZoomで登壇いただき、参加者には対面・オンラインともに講義をリアルタイムで受けてもらうことができました。企画メンバーの講義はパワーポイントで資料を作成し、「生理の貧困」について学生間での調査結果を発表しました。後半のディスカッションワークでは講義を基に、男女混合グループに分かれて生理についての体験談や対処法・将来大切な人(自分の子供・パートナーなど)と生理の話をするためにどのような行動をしていくのがよいかについて話し合いました。

企画の結果としては、事後アンケートの結果男性の「非常に満足した」が100%だったのに対し、女性は「非常に満足した」「満足した」が93%となりました。男性にとっては女性と「生理」について話し「生理用品」を目の前でみるという普段はあまりない体験・正しい基礎知識を取り入れるたことが、満足度につながったため、このような機会が増えるように活動していきたいと思います。事後アンケートのコメントから女性の方が専門的知識や、実際に悩んでいることに対する確かな回答を求めていることがわかり、女性のみ対象の「生理用品・世界の生理に対する考え方を知ることによって自分や周囲の生理に対しての対処法を増やす」という目的の企画も必要だと感じました。今回は共立女子大学・法政大学のみの参加であったが、今後はより多くの法大生・他大学にもこのような活動を波及していけるように広げていきたいと考えています。

【報告・ボランティアセンター学生スタッフ】百瀬 沙彩(人間環境学部人間環境学科3年)



企画した学生の感想

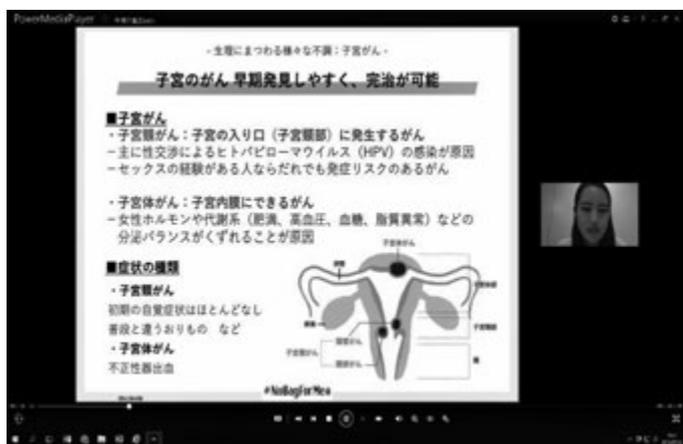
今回の講義を受けたことで、自分の体で起きていることにも関わらず、生理についてあまり知らなかったことに気づきました。これからは自分に合う方法で、生理と付き合っていけたらいいと思います。また、生理について学びたいと思う男性の方がとても多くて驚きました。グループディスカッションでは今まで聞いたことの無い男性目線の意見を知ることができたのでとても良かったです。このような方々が増えることで、この企画の名前にあるように「やさしい社会」が作られていくのではないかと思います。

(KYOPRO 学生スタッフ 法学部国際政治学科1年 津嶋 千早)

今回の講義では、女の子でも知らなかったことがたくさんあったのではないかと考えています。私自身、生理が重いため、自ら色々生理について調べてはいましたが、それでも今回のお話で初めて知ったことが多く、とても勉強になりました。また、実際に生理用品に触れてみることで、どれが自分に合うか合わないかが分かりました。色々な生理用品を試してみたいものの、金銭的にたくさん買うのはきびしかったり、合わなかった時に勿体なくなってしまうという理由で、普段使っているもの以外触れる機会がなかったので、とてもためになる体験でした。この先も、PMS や生理痛で苦しむことはあると思いますが、よりやさしい社会の実現のため、少しでも不安があれば婦人科へ行ったり、周囲の人に相談したりして、一歩を踏み出そうと思います。人生において役立つ講義をして下さって、本当にありがとうございました。

(ボランティアセンター学生スタッフ (VSP) 文学部英文学科1年 磯貝 花歩)

プログラムの様子



初めての美術館の歩き方

日時

事前学習：2021年8月4日（水）14:00～15:30
美術館見学：2021年8月5日（木）14:00～16:15

場所

事前学習：ZOOM
美術館見学：国立新美術館

概要

- 参加者数：事前学習 20名
美術館見学 18名
- 講師：真住貴子 氏（国立新美術館教育普及室室長）
本橋弥生 氏（国立新美術館主任研究員）

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 美術作品の鑑賞法を学んでから、美術館へ実際に訪問することによって、学生が様々な美術館へ訪れるきっかけを作る。

4. 内容：

8月4日、8月5日に法政大学課外教養プログラム『初めての美術館の歩き方』を実施致しました。

このプログラムは学生に美術作品の鑑賞法を知ってもらい、実際に美術館を訪れて貰うことで、美術館の楽しみ方を発見し、様々な美術館を訪れるきっかけとなることを目的とした企画です。

1日目は事前学習を zoom 上で実施し、国立新美術館教育普及室室長真住貴子氏による「対話による鑑賞法」に関するレクチャーが行われました。「対話による鑑賞法」とは、作品の専門的な知識を必要とせず、自分が作品を見て感じたことや考えたことを参加者と対話形式で共有していく鑑賞法です。

プログラム内では実際にジョルジュ・ド・ラ・トゥールの『女占い師』を鑑賞しました。参加者からは「姑問題で揉めているのではないか」「男性は老婆と悪魔の取引をしようとしているのではないか」といった自由な感想が共有され、作品の新たな楽しみ方を発見しました。

2日目は国立新美術館で開催されている「ファッション イン ジャパン 1945-2020 —流行と社会」を訪れ、作品の鑑賞を行いました。見学の冒頭では、講師の国立新美術館主任研究員、本橋弥生氏に展覧会の見どころを紹介していただきました。

また、展覧会の鑑賞後には一日目で学んだ「対話による鑑賞法」を実践し、参加者同士で作品の感想を共有しました。その際には「流行は繰り返す、ということを感じられた。」「現代ファッションより昔のファッ



ションの方が実用的なものが多く驚いた。」といった感想が共有され、参加者同士で楽しそうに対話している場面が多く見受けられました。

今回のプログラムでは参加者同士の対話が多く取り入れられ、多くの参加者が美術作品の新しい楽しみ方を知る機会となりました。

このプログラムをきっかけに、いままであまり美術館を訪れてこなかった人が今後美術館を訪れるきっかけになれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】 鶴見春佳（文学部史学科2年）

プログラムの様子



アイデア実現の力がつくワークショップ

日時 2021年9月7日(火) 13:30~17:00

場所 Zoomによるオンライン開催

概要

1. 参加者数：20名
2. 講師：西濱 大貴氏(博報堂マーケティングシステムコンサル局)
谷口 由貴氏(博報堂生活者エクスペリエンスクリエイティブ局)

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 自身が所属している組織内で意見をまとめる手法を学ぶ
- 様々な学部/学科の学生同士でワークショップを行い、多様な意見をまとめる経験を積む

4. 内容：

2021年9月7日(火)に課外教養プログラム「アイデア実現の力がつくワークショップ」をZoomにてオンライン開催しました。

大学生活において、「今あるものを分析し、新たなものを創造するという考え方」は研究活動や教養を深める場面で大いに役立ちます。これに加え、「自分の意見を的確に伝え、他者の意見を聞き、チームとして意見をまとめる」スキルは現代を生きる社会人として必要な素養であることは想像に難くないと考えました。そこで、講師として大手広告代理店の「博報堂」の方々をお招きし、それらをまとめて学べるような“ワークショップ”について焦点をあてたプログラムを実施しました。

プログラムの前半では「ワークショップとは何か」、「アイデアを実現するための発想過程」、「人と人がコミュニケーションをとるうえで大切なこと」といった点を講義形式で学びました。講義といっても終始和やかな雰囲気、講師の方々の実体験から生まれたサービスなどについて話を聞くことができました。

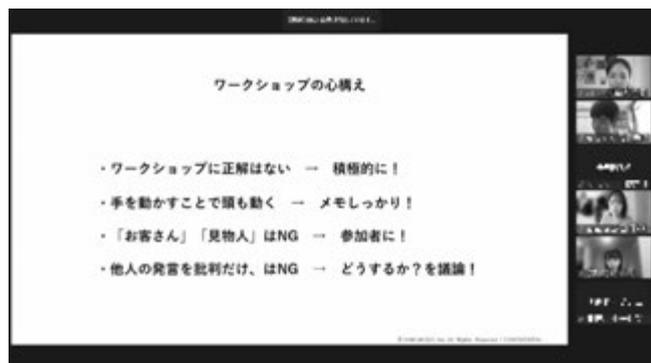
プログラムの後半では前半の講義で学んだ内容を基に、Miroというオンラインホワイトボードサービスを用いて、“オンライン授業をもっと楽しくするには”というテーマのワークショップを体験しました。講師の方々もグループの一員としてフラットな立場で議論に参加し、グループ内で和気あいあいと交流をすることができ、「VRで移動できる大学を作って学生間で交流ができるようにしましょう」、「教授も参加者として参加できるようなコミュニケーションツールを作ろう」といった、ユニークなアイデアが発表されました。



参加して下さった学生の皆様には、本プログラムを通じて学ぶことができた、「アイデアを実現させるための思考方法」や、「今あるものを分析する方法」、「人と人のコミュニケーションをより活発にさせるようなワークショップのやり方」を学生生活はもちろん、今後の人生に活かしていけるよう願っております。

【報告・KYOPRO スタッフ】 秋山 浩一郎（生命科学部生命機能学科3年）

プログラムの様子



学校生活が充実？！より良い睡眠への第一歩

日時 2021年9月16日(木) 15:00~16:40

場所 ZOOM

概要

1. 参加者数：15名
2. 講師：高橋敏治 氏（法政大学文学部心理学科教授）

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 自身の睡眠習慣を見直し、より健康な学生生活を送れるようにサポートする。

4. 内容：

9月16日に法政大学教養プログラム「学生生活が充実！？より良い睡眠への第一歩」を実施致しました。

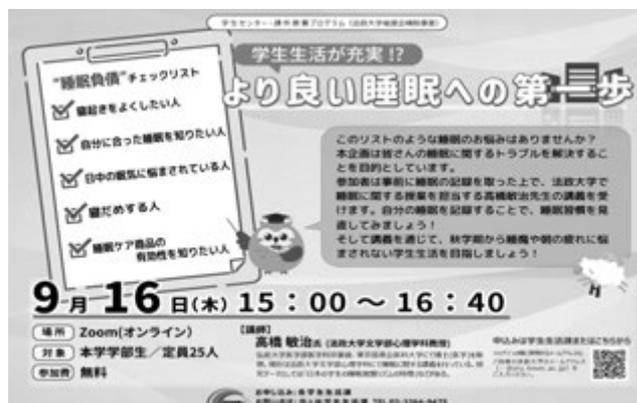
このプログラムは学生の睡眠習慣を見直し睡眠に関する講義を受けることで、自身の睡眠習慣を変えるきっかけとなることを目的とした企画です。この企画はオンラインで行われました。企画では、まず自身の睡眠時間、何時に睡眠を取ったか、食事の時間といった項目を一週間書くという「睡眠日誌」を完成させるという五人一組のグループワークを行いました。また、その作業が終了次第、自身の睡眠の悩みについて話し合いました。あるグループでは「趣味のために就寝時間が深夜になってしまい、朝ぼろっとする時間がある」「スマホを寝る前にどうしても見てしまう」という悩みがありました。また、「昼食後が最も眠くなる」という共通点を見いだしているグループもありました。

次に、法政大学文学部心理学科の教授で睡眠を研究している高橋敏治先生に睡眠の講義を行っていただきました。

良い睡眠とは、ホルモンのバランスや睡眠のリズムが関係する事から始まり、大学生の睡眠に関する問題として「睡眠不足症候群」と「社会的時差ボケ」の二つを挙げて下さいました。「睡眠不足症候群」では生活リズムが不規則になることで、日中に過眠が出現する現象について解説して下さいました。

また、「社会的時差ボケ」では、休日と平日の睡眠時間に差が生まれることで睡眠不足が発生するといったお話を頂きました。

最後に、高橋先生の講義の中から自身の睡眠習慣に行かせることは無いかについて、一つ目のグループワークと同じメンバーで話し合いました。



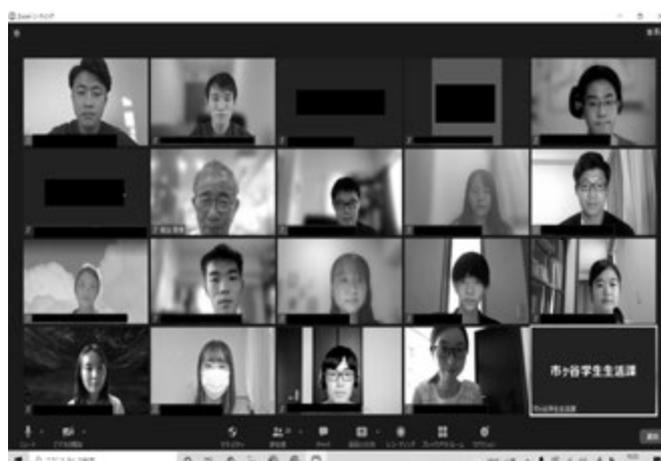
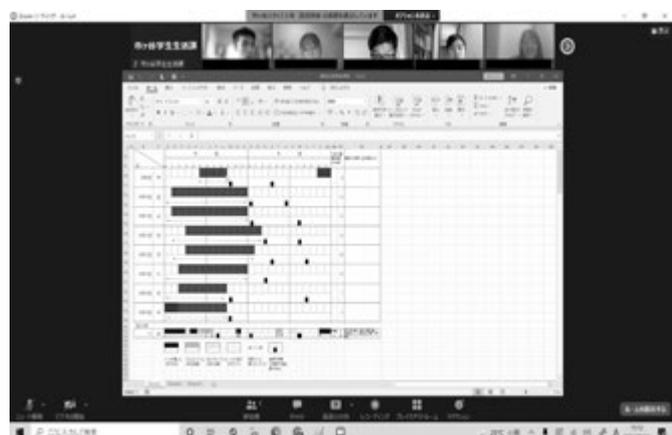
発表の際には、どのグループでも「社会的時差ボケを解決する」「寝る直前にしていた運動の時間を前倒しにする」といった意見があり、ほかのルームの様子を見ることが出来なかったものの活発な議論が行われたことが分かりました。

今回のプログラムでは予期せぬ通信トラブルがあったものの、企画全体に大きな遅延を発生させず行えました。

また、睡眠不足に関する知識やその予防方法についての知識を深めることが出来る機会となりました。このプログラムをきっかけとして、参加された学生の皆さんが日中の睡眠不足に悩まされることなく生活をする事ができれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】藤井航一（法学部・国際政治学科 2年）

プログラムの様子



目指せ一休さん！ 水平思考で身に付ける自由自在な発想力

日時 2021年9月18日(土) 13:20~15:00

場所 Zoomによるオンライン開催

概要

1. 参加者数： 16名
2. 講師：木村 尚義 氏（株式会社創客営業研究所 代表取締役）

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」
- 先入観や固定観念にとらわれない柔軟な考え方を身に付ける

4. 内 容：

2021年9月18日(土)に課外教養プログラム「目指せ一休さん！水平思考で身に付ける自由自在な発想力」を実施しました。

本プログラムは、水平思考という考え方の概要とその活用方法について学ぶことを目的に、Zoomを用いたオンライン形式で開催されました。

プログラムの前半では、水平思考という思考法についての概要や論理的思考との違い、水平思考を考えるうえでのポイントなどについて、講義形式でお話しいただきました。「水平思考とは、固定観念から逃れる思考である」、「水平思考のポイントは、『前提の懐疑・抽象化・セレンディピティ』の3つである」など、水平思考について特に重要な点を学ぶことができました。

プログラムの後半では、実際に水平思考の練習としてグループごとのワークを行いました。

水平思考の3つのポイントのうち、前提の懐疑・抽象化の2点について、それぞれ「見えないものを見るワーク」、「身近なものの30種類の用途を考えるワーク」によって学ぶことができました。

本プログラム参加者からいただいた感想を一部掲載いたします。

- ・「固定観念の崩し方を知ることができて良かった。」
- ・「世界の見方が少し変わりました。」
- ・「ワークを通して実際に水平思考を養うトレーニングができた。」



- ・「授業では学ぶことのできない内容を勉強できた点が良かったです。」

プログラムを通し、柔軟な考え方である水平思考の概要とその活用方法について学ぶことができました。参加者の皆様にとって、本プログラムが日常生活をより良く過ごすための一助となれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】長岡隼巳（理工学部応用情報工学科 3年）

糸木智美（生命科学部生命機能学科 2年）

小橋一慧（理工学部電気電子工学科 1年）

プログラムの様子



語り継がれるギリシア神話の魅力

日時 2021年10月25日(月)

13:40~15:20

場所 Web会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：13名

2. 講師：庄子 大亮 氏

(関西大学非常勤講師)

3. 実施目的：

■学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践

■ギリシア神話を現代に関わる多角的な視点から読解し、現代への関連性について学ぶ

4. 内容：

2021年10月25日(月)に課外教養プログラム「語り継がれるギリシア神話の魅力」をZoomにてオンラインで開催いたしました。高校までの教育において学生たちは神話に触れる機会はほとんどなく、ゲームやアニメなどで多少神話に触れたことがある学生でも神話を詳しく知っている人は少ないと思われます。しかしながら、ギリシア神話は星座やオリンピックなどの文化面において、現代に多大な影響を及ぼしております。だからこそ、ギリシア神話と現代の関わりについて学ぶ機会を提供するために本プログラムを開催致しました。本プログラムではギリシア神話を現代に関する多角的な視点から読解していくことを中心に、現代への関連性について学ぶことを目的としました。

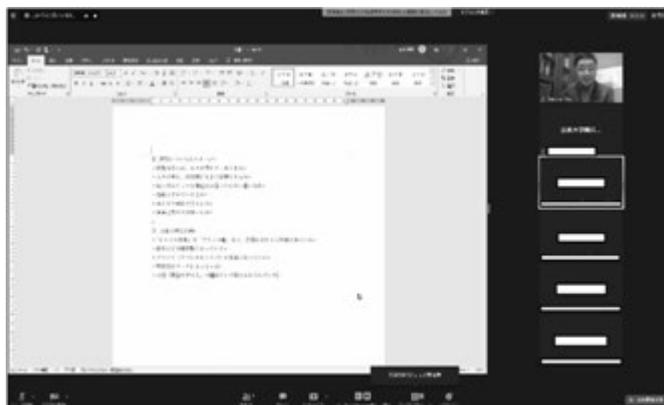
講師には関西大学非常勤講師であり、西洋古代史・西洋神話を専攻とされている庄子大亮氏をお招きしました。プログラムではまず初めにグループワークを行い、学生間でギリシア神話に対して持っているイメージを話し合い、主だったイメージがゲームや小説の物語としての認識が強いことを確認しました。その後の講義では「ギリシア神話の成立過程」と「神話が現代に及ぼしている影響」についてお話しいただきました。神話が現代に及ぼした影響については多くの発見がありました。例えば世界的な行事であるオリンピックのもともとの起源はオリンポス12神の一人である全能の神ゼウスを崇めるための神域における体育や芸術の競技祭であると知ったときは驚きました。他にも神話をモチーフに作られたアニメとして『セーラームーン』や『聖闘士星矢』など聞いたことのあるものも多く、本当に神話は私たちの生活に身近に関わっているのだということを改めて実感できました。

学生には本プログラムを通じて、ギリシア神話を身近に感じ、改めて文化に触れ、ひいては自身の見聞を広めるきっかけとなれば幸いです。

【報告・KYOPROスタッフ】金子慶太郎(社会学部社会学科2年)



プログラムの様子



おうちにいながら触れ合える！ あなたの知らない離島の世界

日時 2021年11月4日（木）15:20～17:00

場所 ZOOM

概要

1. 参加者数： 15名

2. 講師：田村修一氏（一般社団法人式根島観光協会事務局長）

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 島独自の文化や東京都下の離島について学ぶ

4. 内容：

11月4日、法政大学課外教養プログラム「おうちにいながら触れ合える！あなたの知らない離島の世界」を実施いたしました。

本企画はコロナ渦によって移動をする事が不自由な状況の中で、オンラインツールを使って法政大学と同じ東京都に属する離島を繋ぎ、島独自の文化や東京の離島について学ぶ事を目的としています。講師は一般社団法人式根島観光協会事務局長を務められている田村修一氏をお招き致しました。田村氏は観光協会での活動以外に式根島青年団や式根島大学の立ち上げ、さらには歴史文化保存など様々な地域活動にも精力的に取り組まれています。

本企画は Zoom で実施いたしました。

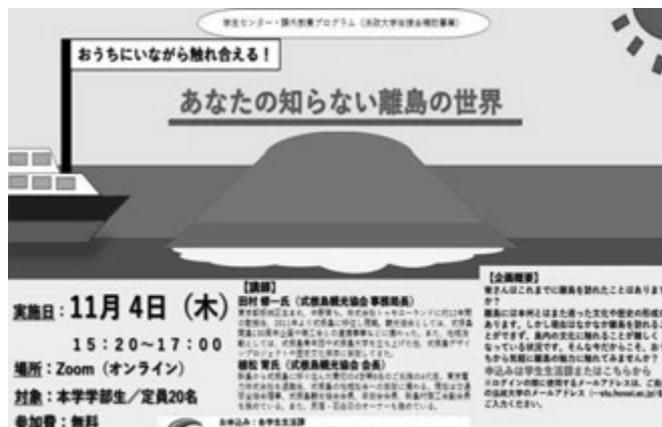
プログラムは田村氏からの講義を始め、グループディスカッションや参加学生と田村氏の間で質疑応答を行うという内容でした。

まず、講義では式根島の紹介をして頂き、その後式根島の歴史や文化を中心にお話しして頂きました。講義内容はどれも興味深く、参加学生はとても熱心に講義を聞いていました。

また、グループディスカッションでは講義内容を踏まえ、「式根島の魅力を他の学生にPR するとしたら、どのような手段でどのようなことを取り上げればよいのか」について話し合い、全体で話し合いの内容を共有しました。

その後、田村氏からフィードバックを頂きました。式根島の観光や町おこしの最前線で働く田村氏からのフィードバックは、現場の視点から見たものが多く、学生にとっては新鮮かつ勉強になるものばかりで参加学生が興味津々に話を聞く様子が印象的でした。

各グループともに講義で学んだことを生かしつつ自ら考えたアイデアも取り入れて発表出来ており、とても有意義な時間であったと思います。

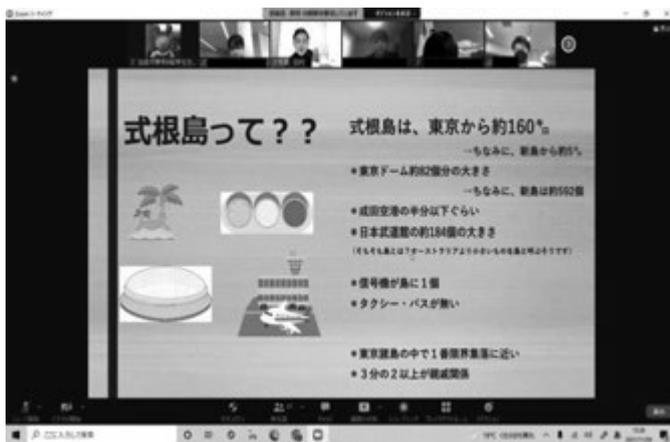


さらに、企画内と企画終了後の計2回質疑応答の時間を設けました。どの時間も参加学生からたくさんの質問が上がり、双方向のやり取りが積極的に行われていてよかったと思います。

コロナ禍という移動をすることが不自由な状況の中で行ってみたいところがあるのにも関わらず行くことができている学生も多いと思います。本企画はオンラインでの開催となりましたが、企画への参加をきっかけに東京の離島に興味を持ち、いつか実際に訪れてもらえれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】小谷直輝（人間環境学部人間環境学科2年）

プログラムの様子



ライオンキング鑑賞教室

日時

11月8日(月) 17:00~18:30
11月9日(火) 18:30~21:30

場所

事前学習：外濠校舎5階523~526 短期会議室
鑑賞：有明四季劇場

概要

- 参加者数：25名(鑑賞教室)、14名(事前学習)
- 実施目的：
 - ミュージカル鑑賞を通じた芸術文化に関する教養教育。
 - コロナ禍によって薄れてしまった学生同士の交流の活性化
- 内容：



11月9日(火)、学生センター課外教養プログラム「ミュージカル鑑賞教室『ライオンキング』を見に行こう」を実施しました。本プログラムは、ミュージカル鑑賞を通じた芸術文化に関する教養教育を目的として、実施しました。

鑑賞教室は有明四季劇場で実施されました。劇団四季の代表的な演目である「ライオンキング」を鑑賞しました。学生達にとっては馴染み深いストーリーである為、初めて観劇した学生でも楽しみながら、鑑賞をする事が出来ました。

今回のプログラムでは最後列での鑑賞となりましたが、劇場の特徴から演者の演技だけでなく、舞台装置の動く様子がしっかりと見られる席であった為、学生はライオンキングの舞台装置がどのように動いているかをしっかりと観察する事が出来ました。

本プログラムは、早々に参加者募集が定員に達し、友達同士での参加も多く見受けられました。参加者からは、「普段1人で行ったり、ミュージカル好きとしか行けないような公演を普段見に行かない大学の友人を誘って見に行けたのでとても嬉しかったです。」という意見や、「中々自分1人では行く機会がないので、このような機会を設けていただけるのは有難いです。」というような意見がありました。この事から、様々な学生と一緒にミュージカル作品を鑑賞する事で、作品の感想や意見を共有する事の楽しさを実感してもらい、コロナ禍によって薄れてしまった学生同士のコミュニケーションのサポートもする事が出来たと感じています。

課外教養プログラムでは、今後も芸術文化に関する知識を身につけ、体験を通して学ぶこと・学生同士で交流が出来るプログラムを実施していきます。

プログラムの様子



覚えておきたいフラワーギフトの心得

日時 2021年11月22日(月)

13:00~13:30

場所 Web会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：7名

2. 講師：本多 るみ 氏

(おうち花マイスター)

3. 実施目的：

■学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践

■花の贈り物をする際のマナーやしきたり、花を選ぶ際に意識すべきことを学ぶ

4. 内容：

2021年11月22日(月)に課外教養プログラム「覚えておきたいフラワーギフトの心得」をZoomにてオンライン開催いたしました。本プログラムでは、社会人になるとプライベートやビジネスなど様々な場面で必要になってくる「贈り物のマナー」について、「花」をピックアップしてご講演いただきました。講師には、生花店への勤務経験などをもとに花に関する情報発信を行っている本多るみ氏をお招きしました。

プログラムでは、贈り物の花を選ぶ際に意識することとして「決まりを守る」「相手の好みや状況に合わせる」という2つの観点から講義をしていただき、その後、講義で学んだこの2つの観点を意識しながら、花贈りのシミュレーションをするワークを行いました。

まず講義では、シチュエーションごとに「やってはいけない花贈りのタブー」を学びました。お見舞いや弔辞などの場には形式的な贈り物のマナーが多く、特に取引先やご近所の人など、あまり知らない相手に花を贈る時はこうしたマナーを守ることが重要だと教わりました。逆に、よく知っている相手に花を贈る時は、マナーばかりではなく相手の好みや状況も考慮すると、より喜んでもらえる贈り物になるということも教わりました。

また、ギフトが得意な花屋の選び方や、花を注文する時の手順や心構えについてのお話もしていただき、今後実際に贈り物の花を選ぶ時、今回の講義で学んだことが非常に役立つことと思います。

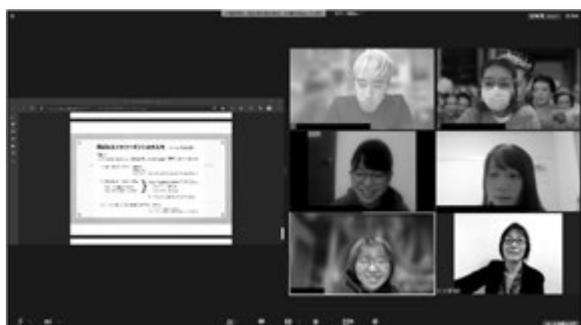
今回のプログラムは「社会人になってから役に立つ花贈りのマナーを学ぶ」というテーマで開催されましたが、質疑応答の時間には花屋の裏事情や花言葉に関する話も飛び交い、マナーだけでなく、花に関して様々な関心を持って参加して下さった方が多かったのだと感じました。

参加者の方々にとって、本プログラムがさらに花に関する見聞を広げ、興味を深めていただくきっかけとなったのなら幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】佐藤珠実(社会学部社会学科2年)



プログラムの様子



自分の考えちゃんと伝わってる？ 正確に伝えるデザイン

日時 11月26日(金) 15:10~17:10

場所 Zoomによるオンライン開催

概要

1. 参加者数：17名

2. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- ポスター、チラシ、スライド資料等の作成において自分の考えを上手くデザインにして伝えたい

3. 内容：

2021年11月26日(金)に課外教養プログラム「自分の考えちゃんと伝わってる？正確に伝えるデザイン」を実施しました。

本プログラムは、自分の考えを正確に伝えるデザインのポイントを学ぶことを中心に、Zoomを用いたオンライン形式で開催されました。

プログラム前半では、デザイン全般において自分の考えを正確に伝えるためのポイントを講義形式でお話しいただきました。「視覚・デザインと情報を結びつける」「グループ化や強弱の明確をして情報の整理を行う」など、デザインを考える時のポイントを中心に学ぶことが出来ました。

プログラムの後半では、実際にデザインの練習として、小金井祭の屋台をテーマにチラシを実際に作るワークショップを行いました。グループ内でチラシを作る要素について話し合い、講義で学んだポイントを活かしながらデザインを考えました。その後、講師の方から総評をいただきました。

本プログラム参加者から頂いた感想を一部掲載いたします。

- ・「今までデザインについて学ぶ機会がなかったので良い機会になった」
- ・「実際にデザインを考えることが出来て楽しかった」
- ・「今後のプレゼンテーションづくりに活かしていきたい」

プログラムを通し、自分の考えやチラシ・ポスターの目的を正確に伝えるデザインについて学ぶことが出来ました。参加者の皆様にとって、本プログラムが自分の考えを正確に伝える一助となれば幸いです。



プログラムの様子



ヘアドネーションって何だろう？ ～Be yourself 自分らしく生きる～

日時 12月3日（金）16:55～18:45

場所 外濠校舎5階523～526 短期会議室

概要

- 参加者数：9名
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - ヘアドネーションについて学ぶ事で多様性社会について見つめ直す

3. 内容：

12月3日、法政大学課外教養プログラム「ヘアドネーションって何だろう？～Be yourself あなたらしく生きる～」を実施いたしました。

本企画は学生の皆様にヘアドネーションの正しい知識を知ってもらい、ウィッグを必要とする人や多様な社会について見つめ直す機会となることを目的とした企画です。

講師にはNPO法人「Japan Hair Donation & Charity」代表理事の渡辺貴一氏をお招きしました。

プログラムは初めに渡辺氏の講義から始まり、その内容を受け学生同士でのグループディスカッションや参加学生と渡辺氏の間で質疑応答を行うという内容でした。

講義では、事前にアンケートを行った質問事項をもとにウィッグの製作過程や保存の方法について教えていただきました。

また、講師の方が現在の活動を始めたきっかけやヘアドネーションとの様々な関わり方についてもお話しいただきました。

学生に語りかけるような講義内容はどれも大変興味深く、学生からの質問も盛んに行われていたのが印象的でした。

久しぶりに対面での実施が可能となったことから、プログラム内では株式会社アデランス様のご協力のもとウィッグ体験も行い、対面の強みを最大限に活かした企画になったのではないかと思います。

実際に学生からは「最初にウィッグ体験を行ったことでみんなが話しやすい空気が作れていた」との声もいただきました。

最後に講義内容を踏まえてグループディスカッションを行いました。

今回はトピックを3つに分け、3つ目のトピックとして、「私たちがウィッグを必要としている人に何ができるか」について話し合っていました。

ヘアドネーションだけに留まらない発展的な内容であったにも関わらず、どのグループも活発に話し合いが行われており、個々人が講義から学んだことを存分に活かしていたように思います。



グループディスカッションでは渡辺氏からのフィードバックもいただきました。

日本でのヘアドネーションにおける草分け的存在として、実際の現場でご活躍されている渡辺氏のお話は非常に勉強になるものばかりで、どの学生も興味津々と言った様子でした。

本企画は多くの方にご協力頂き、「ヘアドネーションから多様な社会を見つめ直す」という企画目的を達成することができました。

ご協力頂いた皆様、誠にありがとうございます。

学生の皆様にとっては本企画が多様性享受への第一歩となれば大変嬉しく思います。

「多様性」には絶対的な答えがないように、今回学んだこともあれば、反対に新たに生まれた疑問もあると思います。

是非皆様には本企画に留まらず、これからもご自身で積極的に意見を共有できる機会を大切にして頂ければ幸いです。

プログラムの様子



見え方が 360° 変わる！？ 法大生がイチから学ぶ自治体のシゴト

日時 12月10日（金）17:00～18:50

場所 外濠校舎 S603

概要

1. 参加者数：13名

2. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 学生が行政について関心を深め、当事者意識を持つ事を期待する。

3. 内 容：

12月10日、法政大学課外教養プログラム「見え方が360° 変わる!法大生がイチから学ぶ自治体のシゴト」を実施致しました。

本企画は、地方自治体の仕事やそこで働く地方公務員の業務、さらには公共政策について学ぶ事で、学生にとって身近な地域における問題について関心を深め、当事者意識を持つ事を目的としています。講師には廣瀬克哉法政大学総長をお招き致しました。廣瀬総長は行政学、公共政策学、地方自治がご専門であり、複数の自治体の条例制定過程の支援にも携わっていらっしゃいます。

本企画は対面で実施いたしました。

プログラムは廣瀬総長からの講義に加え、参加者間でグループワークも行いました。

まず、講義では住民税や公務員など地方自治体に関するクイズを出題して頂き、その後、公務員の仕事や実際に川崎市で行われたごみ処理に関する公共政策の背景についてお話しして頂きました。内容はどれも、私達が普段知っているようで実は知らないといったものが多く、参加した学生はとても興味深く講義を聞いていました。

また、グループワークでは講演の中でも取り上げられた川崎市で行われたごみ処理に関する公共政策の背景とKYOPRO 学生スタッフによる発表を基に「自分が自治体職員だったとして、川崎市におけるごみ問題に対しどのような解決策を取るか」について話し合いました。話し合い終了後には、各グループが考えた解決策について発表を行い、総長からフィードバックをして頂きました。

どのグループも具体的でかつ問題に対して、有効な解決策を導き出せていたところが印象的でした。

さらに、企画終盤では講義内容に関連して法政大学憲章である「自由を生き抜く実践知」とは何か、我々が法政大学で学んでいる事がどのように繋がっているのかという点についてお話し頂き、困難な課題に直面したとしても知恵を絞り、実践をしてみる重要性について学びました。

今回の企画を通して、自身にとって身近な話であるのにも関わらず、実は知らない事の方が多かったという



学生は多いと思います。

企画に参加した事をきっかけに身近な地域の問題について関心を持ちつつ、また「課題を解決する力」もこれからの学生生活の中で養っていただければ幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】小谷直輝 人間環境学部人間環境学科 2年

プログラムの様子



危険ドラッグの恐ろしさ ～薬物乱用防止セミナー～

日時 2021年12月14日(火) 15:30～16:40

場所 Web会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：209名
2. 講師：鬼頭英明氏（法政大学スポーツ健康学部教授）
3. 実施目的：薬物の知識と心身に与える影響を正しく理解し、誘惑を断る意志確立と正しい規範育成を支援する。



4. 内容：

2021年12月14日に課外教養プログラム「危険ドラッグの恐ろしさ ～薬物乱用防止セミナー～」を実施しました。

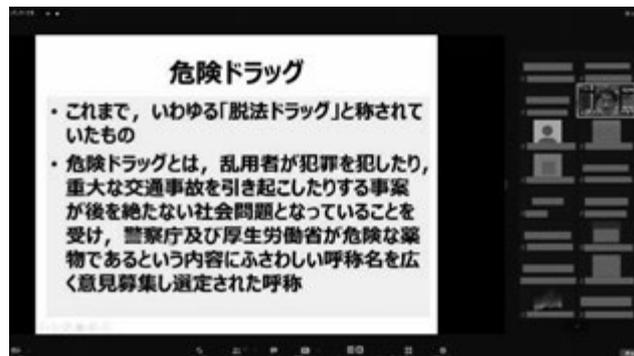
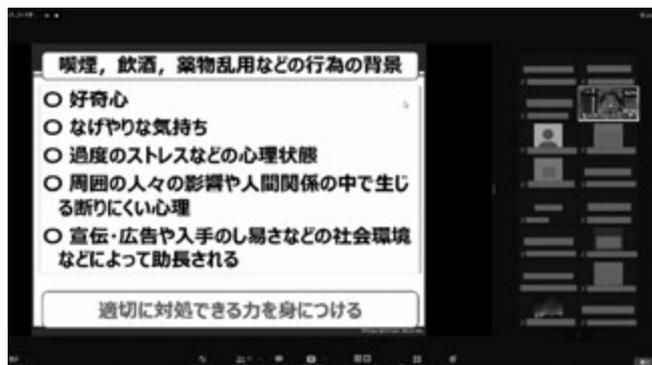
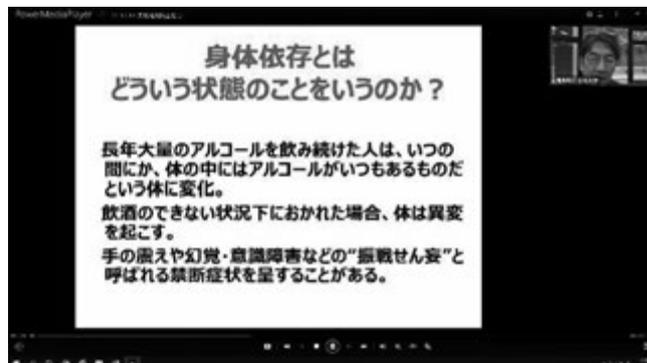
本プログラムは、2012年度より実施しているプログラムで、本年度は昨年度同様オンライン開催としました。保健教育学を専門とする本学スポーツ健康学部の鬼頭先生をお招きし、大学生の薬物への意識や実態、健康への影響、薬物依存のきっかけなど様々な角度から薬物の危険性をお話しいただきました。プログラム終了後は大学ホームページ上で期間限定のオンデマンド配信を行い、各学生団体の代表者は所属員への共有用として活用しました。

以下、学生アンケートです。（記された文面のまま記載）

- ・大麻使用者が書いた手紙が衝撃的だった。一回だけの使用のつもりだったのに気が付いたら薬物依存に陥り、大切な思い出を忘れてしまうのは恐ろしい。実際に薬物を勧められたことはないけれど、先輩にお酒を勧められると断れないのと同じような状況になってしまうのかなと思った。
- ・薬物と言うとドラマや映画の世界のもので、自分にはあまり関係がないと思ってしまっていたのですが、今回のセミナーを受けて大学生の間でも流行っていた時期があったことを知り、自分ごととして捉えなければならぬと痛感しました。そしてサークル内でも周知を徹底しようと思いました。
- ・薬物の話は中学の時からずっと話を聞いていますがそれでも手を染めてしまう人が結構いることに驚きました。サルに薬物を注入していく実験みていてとても恐ろしかったです。日本は海外と比べると薬物乱用者は少ないですが、それでも近年あまり減っていないのでそれを減らすためにどのようにすればよいかみんなで考えるべきだと思いました
- ・大麻を手にしてしまう人が増加傾向にあることや、薬物使用の若年化が実態としてあるということがわかり、改めて薬物の危険性は身近なところにあると感じました。私自身、薬物使用の話をもちかけられたり、他人の話を知りたりしたことはありませんが、もしも親しい人が薬物に関わっていたとしたら、どのように対応すべきか考えさせられました。
- ・正規の市販医薬品を使用外の目的で乱用について、「医薬品自体は合法」ということから、薬物の知識がない人が「これなら大丈夫」と利用し結果的にオーバードーズ（OD）により市販医薬品依存することは珍しくありません。ではこのきっかけはなにかというとSNSなどでレスタミンのODが「レタス」、パブロンゴールドAを粉末状にし、サイダーに溶かしたものが「金パブサイダー」とポップな名前を通り、あまつさえその様子を面白おかしく動画や漫画にまとめたものが存在します。さらには市販薬物乱用者がSNSで「キメる」と写真を投稿したり、コミュニティも形成しています（ODで検索すると大量に出てきます）つまり今の時代はネット

上で薬物乱用者を直接目にする機会が多く、その影響でふとしたきっかけで薬物に染まる危険性が高くなっていると感じます。そのためこのセミナーのような薬物について危険性や正しい知識を身に着けるための啓蒙活動が重要であると思いました。

プログラムの様子



明日の通学が楽しくなる！？

市ヶ谷キャンパス周辺地理・歴史ツアー

日 時 12月17日(金) 13:10~15:25

場 所 ボアソナードタワー5階 BT0507
市ヶ谷キャンパス周辺

概 要

1. 参加者数：13名
2. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 参加した学生の地理的関心・興味の涵養

3. 内 容：

12月17日(金)に法政大学・課外教養プログラム「明日の通学が楽しくなる！？市ヶ谷キャンパス周辺地理・歴史ツアー」を実施致しました。

本プログラムでは、東京スリパチ学会会長で凹凸地形に着目したフィールドワークを通して、観察と記録を行い、法政大学デザイン工学部非常勤講師でもある皆川典久氏を講師にお招きしました。事前講義を受けた後に、神楽坂・飯田橋エリアを散策しながら、江戸城外堀や牛込御門等、自然の地形を生かして整備されていったこのエリアの歴史と地理を学び、普段何気なく通う市ヶ谷キャンパス周辺に興味関心を感じるきっかけとなる事を目的としました。

当日はまず、皆川氏に市ヶ谷キャンパス周辺の地形に関する講演を行って頂きました。市ヶ谷キャンパスがある東京の武蔵野台地の特徴と市ヶ谷キャンパス周辺の土地や近辺を流れる川（神田川や日本橋川）が江戸時代にどのように整備され、現在のような地形に形成されていったのかについてお話して頂きました。昔は皇居から市ヶ谷キャンパス辺りが丘となっており、なだらかな斜面に川が流れていた事や外濠が元々は川だったという事を知り、大変勉強になりました。

次に、キャンパスの外を出て散策を行いました。講演で学んだ土地を実際に歩く事で、地名の由来や歴史、その土地の地形を実感することが出来ました。特に、「赤城神社は台地の縁にあるから崖の上に立っている」という説明を聞いた後、散策終盤で赤城神社を訪れた際に赤城神社の裏口を見てみると、実際に崖状になっていて、地形の特徴を実感出来るシーンもありました。

当日の散策では、参加した学生が自身のスマートフォンで地形を撮影しながら熱心に内容を記録する様子が印象的でした。また、皆川氏へ積極的に質問を行う学生や学生同士の交流も見受けられ、街歩きならではの気軽に話せる環境を作ることが出来て良かったと思います。



このプログラムをきっかけに市ヶ谷キャンパス周辺だけでなく、普段歩いている土地にも関心を持ち、街歩きを楽しんでいただければ幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】八鍬杏実（法学部・政治学科・2年）

プログラムの様子



法政スポーツを応援しよう！ 甲子園ボウル応援ツアー

日時 2021年12月19日(日) 13:05~15:45

場所 阪神甲子園球場

概要

1. 参加者数：20名
2. 実施目的：
 - 「法政スポーツ」応援を通じた帰属意識の高揚



3. 内容：

12/19(日) 阪神甲子園球場にて、学生センター主催課外教養プログラム「甲子園ボウル応援ツアー」を実施しました。

甲子園ボウルは大学アメリカンフットボールの東日本代表と西日本代表の試合で、今回法政大学は東日本代表校決定戦を勝ち抜き、9年振りに東日本代表として西日本代表の関西学院大学に挑みました。当日はアメリカンフットボールを初めて観戦する参加者が殆どで、迫力満点の試合を友人や初対面同士の学生同士で楽しそうに観戦していました。

今回のプログラムは、コロナ禍の影響で学生同士の交流が希薄となっていたことから、学生同士の交流や学生の友人関係の構築を目的として実施しました。当日は、友人を誘って参加したり、初対面の学生同士で参加して連絡先を交換する姿が見られる等、学生同士が活発に交流する姿が印象的でした。

試合は残念ながら負けてしまいましたが、本プログラムでの上記の目的は達成できたのではないのでしょうか。

学生センターは今後もスポーツ応援企画を通して、学生同士の繋がり・交流をサポートする企画を実施していきます。

プログラムの様子



リアル忍者が語る忍者

日時 2021年12月20日(月)

13:40~15:20

場所 Web会議ツール「Zoom」上

概要

1. 参加者数：11名

2. 講師：川上 仁一 氏

(三重大学社会連携研究センター特任教授、
日本忍者協議会顧問)

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 忍者の実態や本質、並びに現代にも生かせる忍者の処世術について学ぶ

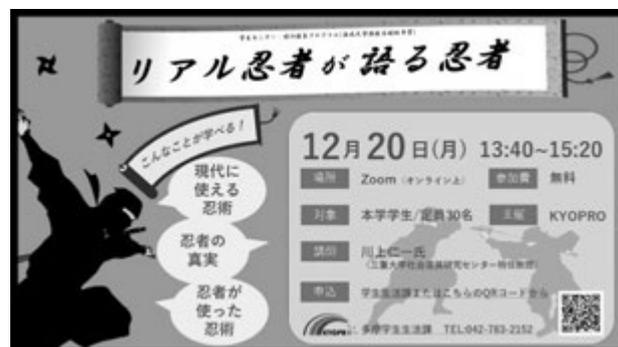
4. 内容：

2021年12月20日(月)に課外教養プログラム「リアル忍者が語る忍者」をZoomにてオンライン開催いたしました。かつて忍者は、主に室町時代後期から安土桃山時代に存在し、敵対関係にあった国の情報を探ったり、時には戦国武将に抵抗したりと活躍を見せていました。しかし現代においては、忍者はアニメなどの創作物で描かれるようなロマンあふれるもので、忍者の実態はよく知らない人がほとんどであると思われます。歴史上に確かに実在した忍者について、その実態や本質、並びに現代にも活かせる忍者の処世術を学ぶことを目的として開催いたしました。

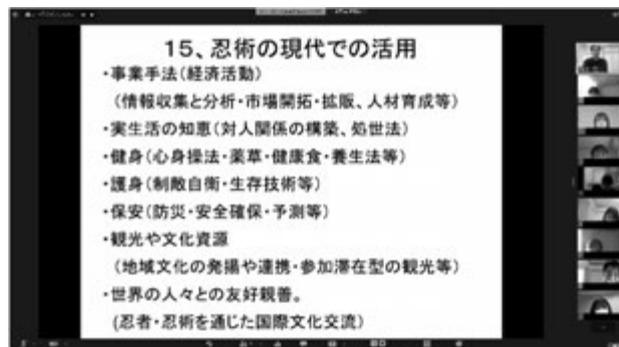
講師には、日本忍者協議会の顧問であり、甲賀流忍術の一派である伴家忍之伝を体得し甲賀流伴党21代目宗家とされている川上仁一氏をお招きいたしました。プログラムでは、まず初めに忍者のイメージを学生間で共有し、川上氏にお聞きしたいことを話し合いました。様々なイメージや質問が飛び交い、忍者に対する興味を改めて認識する機会となりました。その後の講義では、実際の忍術、忍術を会得するための苦行、忍者として必要な心気の鍛錬など、川上氏の経験も交えつつお話いただきました。真の忍者を垣間見ることができたとともに、とてつもなく厳しい修行に衝撃を受けました。最後には、これらの忍術を現代にどのように活用していけるのか教えていただき、健康維持、経済、防災、対人関係など、想像以上に多岐にわたって活用できる場面があることを知りました。

今回のプログラムを通して、日本が誇る忍者という文化に対しての学生の見聞がさらに広がれば幸いです。また、学んだことを現代の生活に活用していただけることを願っています。

【報告・KYOPROスタッフ】徳廣 怜（現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年）



プログラムの様子



意外と知らない？災害・防災知識！

日時 2022年3月4日（金）
14:00~16:00

場所 Zoomによるオンライン開催

概要

- 参加者数：10名
- 講師：河田 恵昭氏
(関西大学 社会安全学部 特別任命教授・社会安全研究センター長)
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 身近に起こりうる災害と防災に関する知識を身につけ、もしもの時に備えるための術を学ぶ

4. 内 容：

近年、大雨による洪水や地震などの自然災害による被害が多くあります。しかし、大学生になると、専攻していなければ自然災害や防災について学ぶ機会がありません。最近ではテレビ番組などで特集を組まれることもありますが、年中行われているわけではありません。

本プログラムは、避難訓練や授業で学ぶ機会を失った学生が非日常になった時にいかに生き延びるかを改めて考える機会を作り、普段から意識できるようにすることを目的に企画立案しました。

講師として、防災・減災と危機管理を専門とし、関西大学 社会安全学部 特別任命教授・社会安全研究センター長、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長など兼任されている、河田義昭様をお招きしご講演いただきました。

プログラムの始めに、アイスブレイクとして「災害といえば何を思いつくか」を参加者、スタッフに挙げてもらいました。皆さん自身の経験や日常生活などから自然災害のイメージを持っているようでした。

講義は、大雨、洪水、地震のメカニズムと首都直下地震についてお話いただきました。大雨時の河川や堤防、東京の地下鉄からの洪水等、災害が起こるメカニズムや被害想定、連発災害や複合災害などにも注目した内容でした。これまで受けたことのある高校までの授業やテレビ番組の特集などでは学ぶことのできない視点、観点からの学びとなりました。

グループワークでは講義に関係した選択クイズを行いました。選択肢を選ぶ際の根拠として本講義や今までの経験などを挙げるなど、有意義な意見交換をすることができたと思います。その後、河田様にグループワークの解答・解説、本プログラムの総評をいただきました。大雨警報下での自動車を運転する危険性のような、今まであまり知らなかった事実や結びついていなかった情報、新しい考え方などがありました。これからの人生にとってとても為になる講義でした。



本プログラムを通じて、災害が起きるメカニズムや起きた時の行動など見識を深めることができました。

参加者の皆様にとって、本プログラムが防災のための知識集め、自然災害下での行動や事前準備について考えるきっかけとなれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】 佐藤真理子（生命科学部応用植物科学科2年）

プログラムの様子

